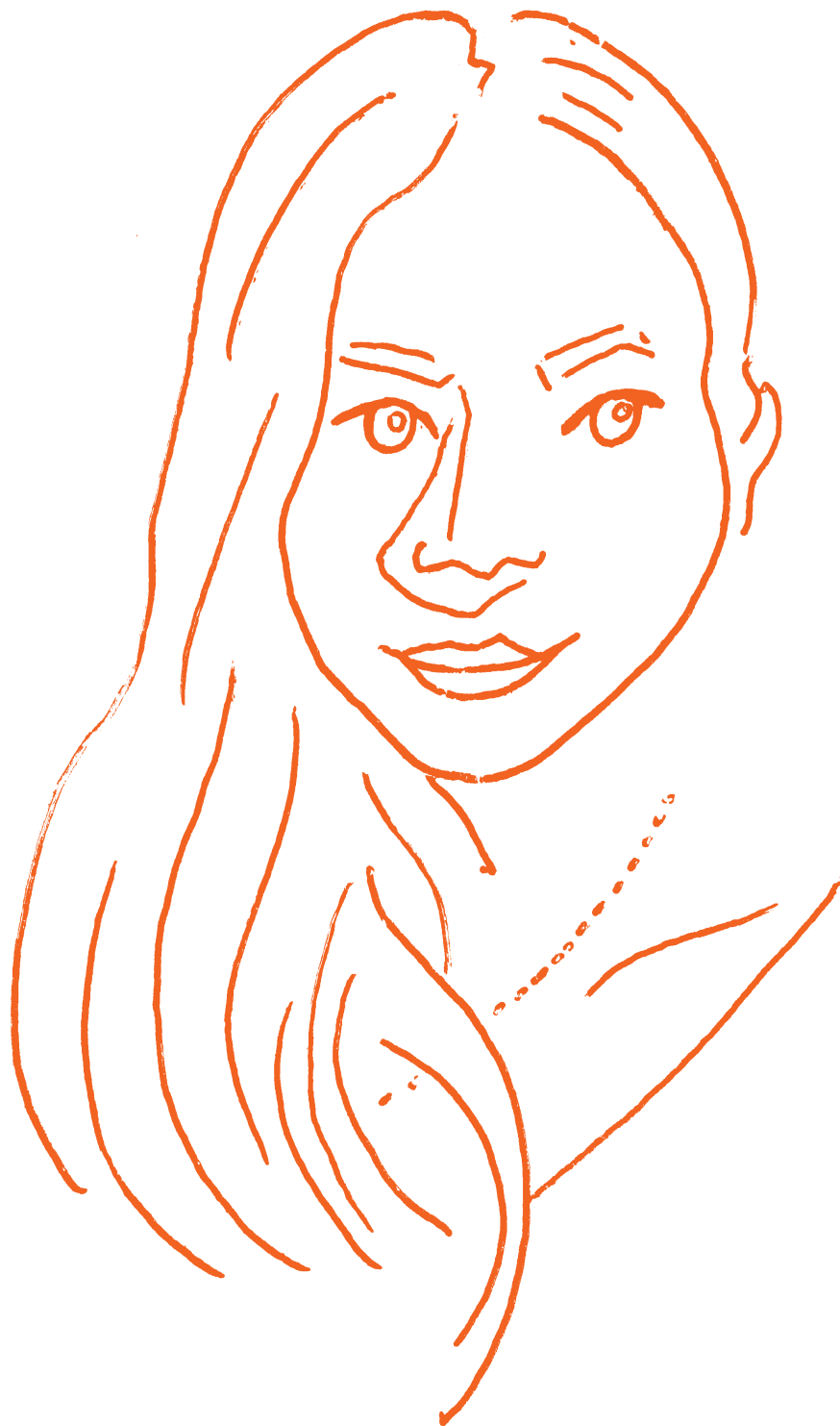




ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 30代

03 性別 女性

04 子どもの数 1人(第2子妊娠中)

05 子どもの年齢 1歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

妊娠がわかった時は非常勤講師の仕事をしていました。1年ごとの更新で、次年度もお願いされていたのですが、年度途中で講師が変わるのは避けたいとのことで、その年で任期満了のため退職となりました。その後出産までの間は自宅で別の仕事をしていました。

今は、講師、デザイン業、小売業をしています。講師の仕事は、主に美術館でのワークショップと、専修学校でデザインとファッションを教えています。デザイン業は、依頼があった場合のみお受けしています。主にカタログや書籍、ポスターなどの制作です。小売の仕事は、子どもの保育園を申請する際に定期的な事業をおこなっている必要があったため始めた仕事です。住んでいる自治体の募集要綱によると、子どもを標準保育で保育園に預けるには、月64時間以上働いているというのが条件なんです。収入は問われていないので、もしかしたら作家で申請しても良かったのかもしれませんが、第一子ということで状況もわからなかったし、会社に勤務されている方などに比べると、保育の必要量が低いと判断されるのではないかという不安があったので、個人でできる仕事として選択しました。講師の仕事以外は、在宅になるので、子どもの具合が悪い時など急に保育園へ迎えに行かなければならない時もすぐに対応することができます。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？☒ はい ☐ いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

☒ 保育園 ☒ 通常保育 ☐ 一時保育 ☒ 認可 ☐ 認可外 ☐ 幼稚園 ☐ ファミリーサポートセンター
☐ その他

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

☐ 保育園や学校に行っている間 ☒ 睡眠時間を削る ☐ 子どもが寝てから ☐ 早朝 ☐ 実家・親に預ける
☐ 配偶者に預ける ☐ 仕事の合間 ☐ 仕事が休みの日 ☐ 捻出できない ☐ その他

今は睡眠時間を削って作業しています。なかなか寝てくれない子で、夜中の0時頃まで寝かしつけられないことも度々あります。そこから制作するにしても、翌日のことを考えるとできて2時くらいまでが限界かな。もちろん、寝かしつけながら子どもと一緒に寝てしまうこともあります。その場合は、朝の5時くらいから起きてやっています。

**10 一日のうちで、①育児にける時間、②作家活動にける時間、③作家活動以外の仕事にける時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
およその時間を教えてください。**

① 育児：0時間 → 7～8時間(平日) 0時間 → 15～16時間(休日)

② 作家：4時間 → 0～2時間

③ 仕事：6～8時間 → 8時間

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

出産前は海外や地方で活動することもあったので、アトリエは持たず自宅で作業をしていました。現在も自宅です。ただ、以前は一部屋使っていたところ、最近は子どもの物がどんどん増えていってしまったため、その部屋は物置きにして、今はダイニングスペースに机ひとつ置いて作業しています。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

今のところはまだないかな。子どもと過ごしている中で、作品に使えるようなものがあれば使いたいとは思っていますが、まだ具体的な形には至っていないという感じです。基本的に物事を直接的に表現するというよりは、何かに見立てて再構成するような手法をとっているのです、いわゆる「子育て」や「子ども」がダイレクトに形に出てくることはないと思います。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

保育園で子どもが3回濃厚接触者に認定されたり、園でクラスターが発生して休園になったりしました。休園期間は確か、1週間～10日程度だったと思います。濃厚接触者になると体調に問題がなくても指定された日まで園には通えません。また、感染の可能性があるということで一時保育や他の施設も使えないため、日中は子どもと家で過ごしていました。小売の仕事は人に頼める部分は頼んで、あとは子どもが寝ている時間にしていました。なのでこの期間は制作の時間はありませんでした。講師の仕事は午後からなので、午前中は私が子どもをみて、午後は夫にフレックスや半休で帰ってきてもらう形でなんとか乗り切りました。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

まだ小さいので、子どもと一緒にいるときは制作できませんが、作品に使えるものはないかなと頭の片隅で考えるようにはしています。気になったことはスマホで写真を撮ったり、メモをとったりして素材を集めています。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいいますか？

友人に子育て中の作家が何人かいるので、相談することは可能です。その中の1人はペインターですが、以前話した際に、やはり子育てをしながら制作していくのはなかなか厳しいと言っていましたね。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

☒ リサーチ ☒ 制作 ☒ 展示 ☒ ワークショップ ☒ アーティスト・イン・レジデンス ☐ その他

作家活動に関わることは全てやりたいです。ただ、一番はとにかく展示をしたい。今まではお声がけいただくこともありましたが、出産後はぱったりなくなってしまったのと、自分で展示のきっかけを作っていく作業が滞っ

てしまっている現状があるので、展示をする機会を継続的に持つ体制を整えたいですね。

今の状態で展示するとすれば、どういう形式ならできそうですか？

今までも制作環境や場の状況に合わせて作品の形式を変えていたので、今ある材料を最大限に生かしてやっていきたいです。今は妊娠中なので、以前のように現場に入って高所作業をしたり重い資材を持ったりすることはできないと思うので、そういった場面があれば他の方をお願いして進めていければと思います。

空間全体を使ったインスタレーションであれば新作ができるかもしれません。展覧会のテーマに合わせて過去作を交えて構成することもできると思います。

(複数人で展覧会を作るのも) いいと思います。一人じゃできないことができたなら面白いだろうなと思います。

**17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？
特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。**

☒ 家族の協力 ☐ ひとりの時間 ☒ 収入 ☐ 美術に関する仕事への就労 ☐ 仲間存在 ☐ その他

家族の協力と理解は大事ですね。幸い夫は家事も育児もとても協力的で、私が作家であることも結婚前から知っているので活動を理解してくれています。出産直後から子育ては2人でしていますが、もし親からの支援を日頃から受けられる環境にいたら、もう少し作家としての時間が増やせるのかなと思うこともあります。

また経済的なゆとりも作家を続けていく上では大切な要素になると思います。制作する時間を確保することに加えて多くの作家は制作費も捻出していかなければなりません。経済的なゆとりがあれば、どうしても外せない展覧会に関わる予定や夜間での作業の際に、シッターさんに子どもをお願いすることも可能かと思います。

自分の収入は全部制作に使えますか？

収入の全てを制作費に充てることはできませんが、制作費は自分で賄うようにしています。

保育園以外に子育て支援サービスは利用しましたか？

住んでいる地域に子育て支援センターがあって、入園する前はよく行きました。そこで生後6か月以下の子どもを持つ親の座談会に参加したりしましたね。職員さんが進行役で、育児に関する悩みなどを共有するような場でした。子育てをする環境や子どもの性格にもよるので、必ずしもそこで問題が解決されるわけではないのですが、同じような状況の人が周りにいることを認識でき、安心感のようなものを得られたと思います。また乳児はひと月ごとに成長の過程に変化があるので、同じくらいの月齢の子どもたちと触れ合うことで、子どもの成長過程を知る機会にもなりました。

ご近所の子育て中の方との交流はありますか？

隣に住んでいる方も同じくらいの年齢のお子さんがいらっしやるので、情報交換したり、近況を話したりといった交流があります。今はコロナ禍なので、それぞれの家で子どもと一緒に遊ばせたりすることはなかなかできませんが、災害など万が一何かあった時に近所に頼れる方がいると安心ですよね。

**18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、
子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。**

例のところでいうと、「託児」と「ゆとりのある搬入・搬出スケジュール」ですね。託児に関しては、同じフロアや建物内に子どもを預けられる施設があれば、滞制作や会期中のイベントなどにも気持ちに余裕を持って対応することが可能になると思います。また、ゆとりのある搬入・搬出スケジュールは、作品のスタイルにもよるので、必ずしも全ての作家が必要というわけではないかもしれませんが、子どもが急病の時などは、その期間内で調整ができるといいですね。打ち合わせなども、例えばあらかじめ時間をいくつか確保いただいて、もし当日ダメになってしまっても他の日で調整いただけるような体制があるといいですね。子育ては何があるかわからないので、絶対この日って決まっていると、万が一の時に対応するのが難しいかと思います。そういう状況をご理解いただいた上で、ゆとりあるスケジュール、あるいは柔軟に対応いただけるような環境が整っているといい



なと思います。

「作家同士の情報交換会」「子育て経験のある作家の体験談を聞く」に関しては、先ほどお話しした子育て支援センターの座談会と同様で、子育てをする環境や子どもの年齢、性格にもよるので、必ずしもそこで得た情報が作品制作に役立つかは分かりません。ただ、子育て中という同じ状況下で、作品制作に取り組まれている姿から共感や心強さのようなものを得ることができるかもしれません。

こうしたインタビューをアーカイブ化するのは大切なことですね。子育ては1年後、2年後、そして5年後、10年後で状況が変わってくると思います。ですので、1回で終わらないで継続的にインタビューし、アーカイブ化することが重要になると思います。それを出産前の作家さんが読んだとして、ああ子育てってこういう風に進んでいって、例えば、この作家さんは数年は活動できなくても、この段階でまた復帰してるんだとか、なんとなく今後の道筋を示せるかもしれません。

私が思う子育て中の作家にとって一番の助けとなることは、作家活動を継続するために必要な支援だと思います。これは作家に限らず、お仕事を継続したいと願っている全ての方に言えることかと思いますが、出産、育児でキャリアが中断されてしまうのは精神的に大きなプレッシャーになります。もちろん、力のある作家さんはどんなにブランクが空いても一線に戻ってこられると思いますし、売れっ子の作家さんであれば、出産しても継続的に仕事をいただけると思うんです。ただ、自分も含めてそうじゃない作家さんもいっぱいいる。もちろん実力は必要だと思いますし、状況によってはできることは限られているかもしれないけど、子育て中だからこそ展示の機会や作家活動に関わるお仕事などにお声がけいただけると、出産、育児に関わらず活動を継続していくことができると思うんです。それが作家としての自信になるし、長期的にみて作品の質の向上にもつながっていくと思います。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

子どもが自立すれば、家を空けることも可能になると思いますので、地方や海外での仕事、滞在制作や展覧会、プロジェクトなどを再開したいです。